

世界の国を知る 🌍 世界の国から学ぶ

わたしたちの地球と未来

🇧🇩 チャド共和国 🇧🇩



【表紙の写真】

市場で野菜を売る女性(左上)

チャドの主要産業は農業です。
できた野菜などを市で売って
生計を立てています。
それにしても、女性は本当におしゃれです。

チャドの草原風景(右下)

チャドと言うと砂漠のイメージが
強いと思いますが、地域によって
様々です。
あえて、この写真を選んでみました。

Contents

- 01 こんな想いを込めました!
- 02 こんな教材です!
- 03 なぜチャド共和国?

第1章 チャドってどんな国?

= 子どもたちが誇りを持って生きている国 =

- 05 チャドってどんな国なんだろう?
- 09 チャドにまつわるウソ?ホント?
- 11 毎日の生活 ~チャドの場合~
- 13 チャドの学校! 勉強だあい好きこどもたち
- 15 フォトギャラリー

第2章 へえ~! チャドと日本

- 17 「木を育てることは人を育てること」
~「緑のサヘル」活動報告~
- 19 フォトギャラリー

第3章 一緒に考えよう! こんな課題

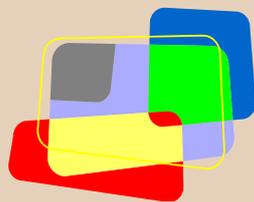
- 21 1日にどれだけ水を使っていますか?
- 23 砂漠化に苦しむチャド
- 25 フォトギャラリー ~難民キャンプ~

第4章 そして未来へ

- 27 『多文化共生社会』ってどんな社会?
- 28 号外! 号外! 20年後の新聞発行
- 29 『多文化共生』と『地球的課題』

参考資料

- 31 目で見るチャド
- 33 チャド地図
- 35 参考文献・データ等の出典
- 35 ご協力いただいた方たち
- 35 2008年度教材作成チーム



こんな想いを込めました！

愛知万博で体験した国際交流の楽しさを広げていきたい！つなげていきたい！
そんな想いが本書作成のきっかけでした。



国際交流は楽しい！

『世界大交流』をうたった2005年愛知万博。120カ国の文化や生活に触れたり、いろいろな国の人たちと話をしたりすることは、とても楽しい経験でした。「国際交流」は決して難しいことではありません。自分の視野を広げ、他者を尊重する力を育むことにもつながり、そうした力は多文化共生社会を実現するためにも欠かせません。そんな国際交流の楽しさ、大切さを愛知から発信していきたいと考えました。

人の顔が見える教材をつくりたい！

「日本ってこんな国」「日本人ってこんな人」って決めつけられて違和感を感じた経験はないでしょうか？ 国全体の概要を知ることもちろん大切ですが、何となく持っている固定概念をもしかしたら裏切るような、「へえ～、こんな一面もあるんだ」と意外に思えるような、そんな教材をつくりたいと考えました。そうすることによって、「わたしたちが世界のことをいかに知らないか」ということや「普段見聞きしている情報はほんの一面にすぎない」ということに気づいてもらうとともに、そこに住んでいる人々を身近に感じてもらえたらいいなと思います。

世界の国から学ぶ！

どんな国もいいところ、悪いところ、いろいろな面を持っています。何が幸せなのか、「豊か」の基準は何なのか、といった価値観もさまざまです。例えば、途上国だから「かわいそうな国」ではありませんし、紛争があるから「こわい国」でもありません。日本にもたくさん問題があります。様々な国の、特にすばらしいところを知ることによって、対等な関係をつくとともに、自分たちの地域や生活をふりかえることができると考えました。国にも人にも文化にも優劣はないことを踏まえて、お互いに学び合える関係ができればいいなと思います。

未来を創るのはわたしたち！

地球はさまざまな課題を抱えています。環境や人権や平和など、日本も無関係ではありません。地球に住む一人ひとりがそれらの課題に取り組まなければ、よりよい未来を創ることはできないのです。そしてよりよい未来を創るためには、今、地球で起きていることは何なのかを知り、それが自分とつながっていることに気づくことが大切だと考えました。本書に掲載されていることは、地球で起きていることのほんの一部ですが、それらを通して感じたこと、気づいたことが未来につながっていくといいなと思います。



こんな教材です！

次のようなことを考えて作りました。

ファシリテーター・先生用の教材です

内容については、小学生高学年以上を対象としていますが、本書自体は、ファシリテーター(参加型プログラムの進行役)や先生に使っていただくための教材となっています。ことば遣いなど、対象に合わせて直してください。必要に応じてコピーし、配布していただいても結構です。

参加型で使うことができる教材です

情報・知識を聞くだけでなく、考えたり、作業をしたり、話し合ったりすることによって楽しく学べるとともに、その中で何かを感じたり、気づいたりしてもらえようようなプログラムにしました。基本的には4～6人のグループに分かれて行うプログラムになっています。必ずしも正解があるものばかりではありません。参加型のプロセスを大切にいただければと思います。

きっかけづくりの教材です

本書で紹介したのは、チャドのほんの一面です。本書だけでチャドのすべてがわかるわけではありません。チャドに親しみを感じ、関心をもってもらおうと同時に、自分たちの地域をふりかえり、地球的課題を考えるきっかけとして活用してください。

使い方は自由です

とはいうものの、使い方は自由です。もちろん、最初から順番にやる必要はありません。対象に応じてプログラムの進め方を変えたり、時間的な条件によって短縮したりするなど調整することもできます。参加者にあわせてどんどんアレンジして使ってください。巻末に参考資料を掲載していますので、最新のデータが必要なときや、もっと深めたいときは、活用してください。

カラーデータ・写真はダウンロードできます

カラーデータ・写真については、(財)愛知県国際交流協会のホームページからダウンロードできます。ただし、著作権は出典元または(財)愛知県国際交流協会に帰属します。学校関係や国際交流団体等が教育の目的で非営利に使う場合に限り、活用していただけます。

本書の構成とマークの見方

基本的に、1項目2～4ページで掲載しており、実際に使っていただくプログラムと、それに関する説明とで構成されています。それぞれのプログラムの「ねらい」も記載していますので、参考にしてください。また、ページの下段に掲載している一口コラムは、プログラムとは関係なく、ちょっとおもしろい情報や用語の意味などです。必要に応じて活用してください。なお、本書で使っているマークの意味は次の通りです。



	参加型のプログラムです。必要に応じてコピーし、配布してください。		プログラムで模造紙を使います。
	プログラムに関する説明です。ファシリテーター・先生用です。		プログラムでマジックを使います。
	プログラムのねらいです。		プログラムで付箋を使います。
	ちょっとブレイク一口コラムです。		プログラムでA4用紙を使います。裏紙等を活用してください。
	プログラムに使う資料です。必要に応じてコピーし配布してください。		データ等の出典です。
	コピーし、カード等に切り離して使ってください。		写真の撮影者です。

なぜチャド共和国？

始まりは、2005年愛知万博「一市町村一国防レンドシップ事業」

2005年に開催された愛知万博の会期中愛知県内の市町村は、公式参加国120カ国(日本を除く)のホームシティ・ホームタウンとして、地域ぐるみのホスピタリティあふれる受入を行いました。この取り組みを「一市町村一国防レンドシップ事業」と言います。このフレンドシップ事業では次の5つのことをねらいとしました。

- 世界各地から訪れる人々に日本や日本人を理解してもらう
- 迎え入れる地域の人々に、交流を通じて、世界には多様な価値や文化があることを知ってもらう
- 万博会場内だけでなく、地域でもてなすことで、万博を相互交流を深めるための大きな舞台とする
- 地域文化を世界に発信することにより、各地域が自らの文化を再発見し、地域のあり方や発展の方向性について学ぶ機会とする
- 地域に根ざした「人」と「人」との交流を万博終了後も引き継ぎ、世界の人々をつなぐ架け橋としてさらに発展させる

この「一市町村一国防レンドシップ事業」をさらに広げ、つなげていこうと作成したのがこの教材です。

そして、チャド共和国のホームシティは、愛西市でした。



イタリア共和国
オランダ王国
ベルギー王国
フランス共和国
ポルトガル共和国
モロッコ王国
社会主義リビアアラブ国
セネガル共和国
ベナン共和国
カメルーン共和国
ガボン共和国
南アフリカ共和国
ウズベキスタン共和国
ボスニア・ヘルツェゴビナ
キルギス共和国
モンゴル国
大韓民国
バキスタン・イスラム共和国
ラオス人民民主共和国
カンボジア王国
アゼルバイジャン共和国
イラン・イスラム共和国
サウジアラビア王国
エジプト・アラブ共和国
ケニア共和国
チャド共和国

ニュージーランド

エルサルバドル共和国
バハマ共和国
ボリビア共和国
ドミニカ共和国

フィジー諸島共和国

キリバス共和国

本教材
: 2008年度教材作成の国
: 2007年度教材作成の国
: 愛知万博公式参加国

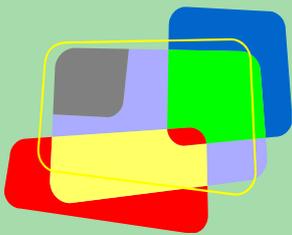
愛知万博 / アフリカ共同館



第1章

チャドってどんな国？

= 子どもたちが誇りを持って
生きている国 =



チャドってどんな国なんだろう？



チャドという国名を聞いたことはありますか？日本人にとっては未知の国チャド。みなさんはどのくらい知っていますか？



- 1 みなさんは、チャド共和国という国を知っていますか？
まずは、チャド共和国について書かれた次の資料を読んでみましょう。



チャドはアフリカの中央にある国です。
1960年フランスから独立しました。
面積は日本の約3.4倍、海はありません。

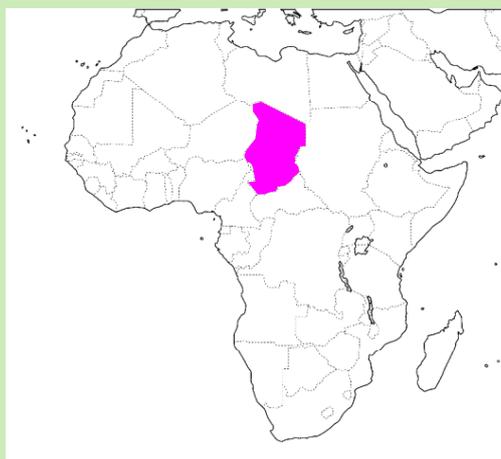
国土の北半分はサハラ砂漠、南半分はサバナ地帯です。
北部地域は暑く、ほとんど雨が降りません。
中央部から南部にかけては、雨季と乾季があります。

人口は約1,050万人（2006年）。サラ族、チャド・アラブ族、マヨ・ケビ族などたくさんの民族が住んでいます。
6割以上がイスラム教徒です。

主な産業は、綿花栽培などの農業、牧畜業などです。

チャドの東はスーダン共和国。スーダンの内戦による難民が数多くチャドに逃げてきています。

また、現在、チャドは「砂漠化」という環境問題にも直面しています。



- 2 さて、これだけの情報から、みなさんはチャドをどんな国だと想像しますか？
チャドの人々がどのような生活をしていると思いますか？
グループで模造紙に、「チャドの人々の生活」を描いてみましょう。

- 3 では、次の写真（P.7～P.8）で、チャドの写真はどれだと思いますか？

- 4 みなさんが想像していたチャドと比べてどうでしたか？
想像どおりでしたか？それとも違っていましたか？
また、資料を読んだときの印象と、写真を見たときの印象はどうでしたか？
写真を見てびっくりしたこと、やっぱりと思ったことなど、感想を話し合ってみましょう。



P.5のこたえと解説です。



チャドという国を知ると同時に、1つの国を理解するとき、データだけでは一面的にしかわからないことに気づく。

16枚の写真、すべてチャドの写真です。

A L

首都ンジャメナの写真です。自動車も走っていますし、道路も舗装されています。でも実は、十数年前まで、日本の3.4倍の広さを持つチャドには舗装された道路が2本しかなく、信号機も2つしかなかったそうです。また、途上国であっても首都だけは高層ビルが立ち並び、先進国と変わらない風景を持つ国が多い中で、チャドは首都ンジャメナでも高いビルがほとんどありません。これも十数年前の話。ンジャメナにはビルが1つしかなく、タクシーに乗って「ビルへ」と言えば、そこに行くことができたそうです。そんなチャドなので、逆に「スラム」はありません。

B H

難民キャンプの写真です。Hは難民の子どもたち。チャドは、自分たち自身の生活が大変であるにも関わらず、スーダンからの難民を受け入れてきました。しかし、最近では、難民キャンプ周辺の砂漠化、難民と周辺住民との生活の格差、難民キャンプへのスーダン民兵の襲撃など問題も起こりつつあります。いずれにしても、20万人もの難民がやってくれば、受け入れる側への影響はとて大きいでしょう。

C

チャド湖です。チャド、ニジェール、ナイジェリア、カメルーンの4カ国にまたがる湖で、チャドの国名はこの湖に由来します。水深が浅く、雨季と乾季では大きさがまったく違いますが、さとうきび栽培、稲作などによる灌漑や降雨量の減少などにより、最近では縮小を続けています。

D N

村落の様子です。かわいらしい形をした家は、暑い土壁と大量の草の屋根でできています。これで暑さをしのぐのです。

E F I P

どれもチャドの風景です。チャドというと、砂漠のイメージが強いかもしれませんが、リビア国境につながる北部には、ティベスティ山地があり、標高3,415mです。また、スーダンにつづく東部には、エネディ山地やワダイ高原が広がります。北部はサハラ砂漠ですが、南へ行くに従い、樹木が多くなり、緑が濃くなっていきます。ただ、最近では砂漠化が進みつつあることが、問題となっています。

G

雨季になると水があふれ、乾季の時には「道」だったところが、川になってしまいます。

J

なんとこれは、牛の群れです。この牛は、チャドにしかない牛。チャドの生活には、家畜が欠かせません。

K

綿花の収穫です。チャドの主要産業は綿花栽培。コットンの原料となる綿花を海外に向けて輸出しているのですが、綿花栽培には大量の水が必要となります。水不足のチャドにとっては、大変な負担となっているのです。

M

水を運んだり、薪を運んだりするのは、子どもたちの役割です。どんなに小さな子どもも、頭の上に上手に荷物を載せて運びます。そのお陰でしょうか。チャドの人々はみんなとっても姿勢がいいのです。

O

市場でパンを売っている女性。

A



B

緑のサヘル (P.7~8の写真すべて)



C



D



E



F



G



H



I



J



K



L



M



N



Q



P

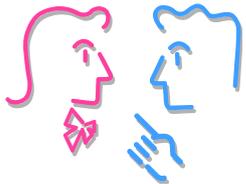


チャドにまつわるウソ？ホント？

① さて、チャドについてのカード、正しいと思いますか？ 違うゾと思いますか？



① チャドの公用語はスペイン語である。



② チャドは、まったく雨が降らない国である。



③ チャドには、100以上の部族が住んでいる。



④ チャドには、山はまったくない。



⑤ チャド湖は世界最大の広さを誇る湖である。



⑥ チャドの主要産業はチャド湖における漁業である。



⑦ チャドでは、雨がやんでから6時間は自動車を運転してはいけないという法律がある。



⑧ チャドには郵便配達制度がない。



⑨ チャドには中央アフリカやスーダンから避難してきた20万人以上の難民が住んでいる。





- 1 **㊦** チャドの公用語はフランス語とアラビア語ですが、各部族のことばも使われています。ラジオ放送では、フランス語、アラビア語のほか、サラ、トゥブリ、マサ、ゴラン、ムンダン、フルフルベ（フラニ）、カネンブなどのことばが使われています。
- 2 **㊦** 北部と南部では気候が異なります。チャドの北部はサハラ砂漠に含まれる砂漠気候で乾燥していてほとんど雨が降らないのですが、南部に行くほど雨量は多くなります。ただ、いずれも季節は雨季と乾期に分かれています。
- 3 **ホント** 南部には農耕民が、北部にはアラブ人や遊牧民が居住しており、南部と北部の人口はほぼ同じです。北部の人々の多くがイスラム教徒であるのに対し、南部の人々がキリスト教や固有の信仰を持つなど、南部と北部では文化的にも社会的にもまったく異なります。また、フランス植民地時代に南部の経済や教育が進み、北部と格差ができたため、南部の人々と北部の人々の対立を生んでいます。
- 4 **㊦** チャドの国土のほとんどは平坦な低地ですが、北のリビアとの国境にはティベスティ山地、東のスーダンとの国境にはエネディ山地があります。チャド湖周辺が最も低く、そこから北部、東部、南部と進むにつれ、どんどん高くなっていきます。ティベスティ山地にある活火山のエミクシが標高3415mで最も高い地点になります。
- 5 **㊦** チャド湖はチャド、カメルーン、ナイジェリア、ニジェールの4カ国にまたがる、かつてはアフリカ最大の湖でしたが、砂漠化が進み、過去数十年で面積が1/10になったと報告されており、このままでは消滅してしまうとさえ言われています。
- 6 **㊦** チャドは海とまったく接していない内陸国です。チャド湖でわずかに漁業も行われていますが、主要産業は農業と牧畜です。特に、綿花が主要生産物です。
- 7 **ホント** チャドの道路のほとんどは土を固めただけのもの。乾季はいいのですが、雨季になると崩れてしまいます。道路を保護するための法律として、雨がやんでから6時間すぎるまでは運転してはいけないと定められました。例外は、病人を乗せているときと、政府の証明書があるときだけ。雨季になると検問所ができ、6時間経っていないのに運転していると、止められてその場で待つよう言われてしまいます。でも、雨季のことなので、待っているうちに次の雨が降り出したりして…。検問所に何日も止められている車がたまっていることもあるそうです。ただし、これは主要な幹線道路の話です。
- 8 **ホント** 配達制度はありません。首都ンジャメナに私書箱を作ってそこに取りに行くか、届けて欲しいあて先の方向に行く人をお願いして持ってもらうかのどちらかです。みんなお互い様で、自分が出かけるときは郵便配達しながら出かけますし、だれかにお願いすれば快く持っていってくれます。
- 9 **ホント** チャドは現在、スーダンからの難民約20万人、中央アフリカ共和国からの難民約5万を受け入れています。一方で、チャドの国民も難民としてカメルーンやスーダンで暮らしています。(→P.25)



 緑のサヘル

毎日の生活 ~ チャドの場合 ~

① チャドの人たちの日常生活ってどんな感じなのでしょう?

1 さて、これは何をしているところでしょう?

A



B



C



2 チャドの人々の生活にとって、ラクダ、牛、馬、ヤギ、羊、ロバなどの家畜は欠かせません。では、これらの家畜、全部で何頭ぐらいいるでしょう?? ちなみにチャドの人口は約1,000万人です。

D 約700万

E 約1,000万

F 約1,700万



緑のサヘル (写真すべて)



P.11のこたえと解説です。



まずは「知らないこと」に気づくことから始めましょう。

1

A 「風選」といって、穀物の実と殻、あるいはチリやゴミと分別しているところ。その日の風の向きや強さによって、絶妙に高さを変え、選別します。日本でも昔は行っていたそうです。

B C

穀物をついてお湯の中で練り、カマドで焼いて、「ブル」という蒸しパンとお餅の間のようなものを作ります。カマドは3つの石の上に乗せる「三石カマド」です。

2 正解は F です。

ただし、この数字は、家畜への予防注射数を基にFAO（国際連合食糧農業機関）が推測したもの（2007年）で、実際にはこれ以上の家畜がいると考えられます。数の内訳は、

ラクダ 749,500頭 馬 279,420頭 ヤギ 6,096,390頭
牛 6,820,300頭 羊 2,981,800頭

日本の家畜飼育数は、例えば牛は3,391,000頭（2007年「日本の統計」）ですので、人口から言っても、いかにチャドの家畜数が多いかわかるでしょう。チャドでは荷物を運んだり、水を汲んだりするときに家畜は欠かせませんが、同時に放牧により木の実や葉を食べてしまうなどの問題も出ています。



ブルとオクラスープ
チャドの定番料理です。



三石カマド

チャドの料理

チャドの北部と南部では、食生活も異なります。南部は、アフリカの他の国々と同じように、トウモロコシやキャッサバ、ひえ、粟、スープ、米などを食べますが、北部砂漠地域の遊牧民は、羊、パン、マカロニなどをいただきます。

最近では首都の役人などが朝食も食べるようになっていますが、食事は1日2回が基本です。ただ、収穫期になって朝早くから働くときは、お粥のようなものを食べることもあります。逆に端境期で、去年の作物が少なくなってくると、1日1回になってしまうこともあります。地域によっては、1日1回の日が半年ぐらい続くこともあり、食糧不足は深刻な問題です。



写真は、冠婚葬祭の時になどに食べる料理。日常は、この中の1~2品をいただきます。



緑のサヘル(写真すべて)

チャドの学校！勉強だあい好きこどもたち

① 次の写真はチャドの小学校の様子を写したものです。

写真を見て、日本と違うところ、同じところはどこだと思いますか？自由に話し合ってみましょう。

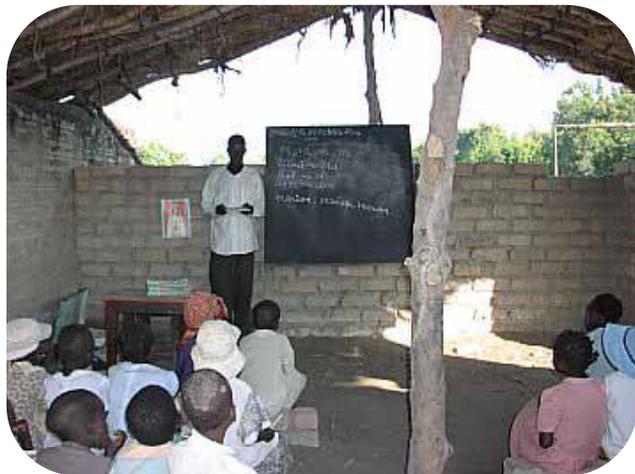
A



B



C



D



E



F





A B

学校は、お父さん、お母さんの手作りです。各家庭からレンガを持ち寄り作った教室です。

C D

授業風景です。1年生はまだ教室がないため、マンゴの木の下で青空教室です。木の下はとっても涼しいそうです。(今は、1年生も教室ができています)

E

始業式に出るため、整列している子どもたち。日本と同じですね。とってもかわいらしいです。

F

子どもたちが運んでいるのは、教科書が入っている箱です。毎日教室に運びます。数少ない教科書をとても大切に使っているのです。

チャドの教育制度

基本的にはフランス式の教育制度です。小学校6年間で義務教育で、ほとんどがフランス語で授業が行われます。最近ではアラビア語で授業をするところも少しずつ増えていますし、学校とは別にコーラン学校に通う子どももいます。特に首都などでは、子どもの数が増えており、教室が足りないため、午前と午後の2部制がとられています。



子どもたちはサッカーが大好き！
サッカーボールは宝物です



図書館です。

よく見ると、右上にフランス語(?)
で日本からの協力のおかげで...



クリスマスプレゼントのメモ用紙と
鉛筆。チャドの子どもたちにとっては、
大きな大きなプレゼントです。

 ショファイユの幼きイエズス修道会
シスター平静代

誇りを持っているチャドの子どもたち

「途上国へ行くと、子どもたちの目がキラキラしている」ということばをよく聞きますが、チャドも例外ではありません。チャドの子どもたちが「キレル」ことはまったくありません。なぜなのでしょう？

チャドの子どもたちは、自分の存在の意味、自分の役割をちゃんとわかっており、それに誇りを持っているからです。例えば、子どもたちの役割である薪拾い。自分がそれをやらなければ、家族があるいは村がもしかしたら困ってしまうことをちゃんとわかっているのです。

また、苦しい生活だからこそ、人と人とのつながり、助け合いをとっても大切にしていますし、多くの知恵を持っている年長者を尊敬し、目上の人には逆らいません。日本のような先進国は時間の流れがとても速く、お年寄りの経験に学ぶことが難しいときもあつたりするのですが、チャドでは時間の流れが遅く、お年寄りの知恵がとても大切です。チャドの村では、夕食後、若者が長老(...といっても60歳ぐらいなのですが)のところを訪れ、話を聞くという光景がよく見られるそうです。

考えさせられますね。



フォトギャラリー

シヨファイユの幼きイエズス修道会 シスター平静代

緑のサヘル(右上以外)



ギダリ(Guidari)の町の市場
売りたいものを売りたい場所に並べて売るまさに「フリーマーケット」!

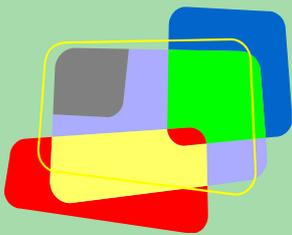


どんなに
小さくたって
家の手伝いは
あたりまえ
子どもたちも
家族の生活を
支える大事な
一員なのだ



 第2章

へえ～！チャドと日本



「木を育てることは人を育てること」

～『緑のサヘル』の活動報告～



わたしたちにとって馴染みの薄いチャドですが、そこで活動している日本のNGOがあります。

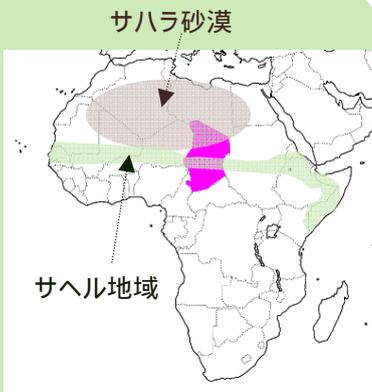


- 1 まずは、次の資料を読んでみましょう。



アフリカの北部に広がるサハラ砂漠の南に「サヘル」と呼ばれる地域があります。「サヘル」はアラビア語で「岸边」や「境界」という意味です。その昔、サハラをはるばる渡ってきた旅人や商人たちは、苦難の末にこの地にたどり着き、本当に久しぶりに緑を目にすることができました。そして安堵と感謝の気持ちを込めて「岸边」と呼んだのでした。

しかし今、このサヘル地域では砂漠化が急速に進んでいます。かつての「緑の岸边」は緑を失って不毛の土地に姿を変えつつあり、近年では飢饉が頻発することから、「飢餓ベルト」と呼ばれています。食糧や水の慢性的な不足、衛生の低下と疾病の蔓延、吹き付ける熱風や砂塵等、住民は様々な危機にさらされた生活を余儀なくされています。



『緑のサヘル』リーフレット

*「砂漠化」についてはP.24へ

- 2 さて、みなさんなら、「緑の岸边」を復活させるために、どんなことをしますか？
グループで、できそうなことをできるだけたくさん考え、模造紙に書き出してみましょう。

- 3 では、緑のサヘルが、実際にどのような活動をしているか、リーフレットやインターネットで調べてみましょう。

- 4 みなさんが出し合ったことと比べてどうでしたか？
緑のサヘルでは活動にあたって、次のようなことを目指しています。



「緑のサヘル」という団体名には、サヘル地域に緑をよみがえらせ、そこに暮らす人々の生活を改善したいという願いが込められています。そのためにはまず、生活が安心できるものでなければなりませんし、緑を蘇らす取り組み自体が、生活を破壊してしまうことは避けなければなりません。飢えや渴きに苦しむ人々に、植林や水遣りを押し付けるようなことは、絶対にあってはならないのです。

これまでの支援活動は、外国からの新技術を導入することで成果を挙げようとしてきましたが、現地には地域ごとに昔から受け継がれてきた伝統的技術がいくつもあります。世代交代などで忘れ去られていることもあります。このような技術を取り上げ、活用することで、現地の住民自身により継続的で自然環境にやさしい活動を目指しています。

『緑のサヘル』リーフレット

- 5 さて、この資料を読んで、国際協力活動をする時に大切なことは何だと思えますか？
どんなことに気をつけなければいけないと思えましたか？
みんなで話し合ってみましょう。



緑のサヘル

NGOというのは、非政府組織 (Non-governmental Organization) で、開発、人権、環境、平和など様々な課題に取り組んでいる民間の組織です。

「緑のサヘル」は、アフリカのチャドとブルキナファソで、砂漠化を防止するために様々な活動を行っているNGOで、1991年に設立されました。この年、国連環境計画が、「砂漠化の影響を受けている土地は地球上の全陸地の25% (約36億ha)、影響を受けている人は6人に1人 (約9億人)」「砂漠化・土地劣化問題は最も深刻な地球環境問題」と報告しました。そんな砂漠化の影響を受けているサヘル地域の環境を保全し、住民生活を改善するためにさまざまな活動に取り組んできたのです。

緑のサヘルの主な活動

<http://www.jca.apc.org/~sahel/>

苗木生産・配布、植林支援

住民自らの手で苗木を育てられるよう、苗木を配布したり、技術を伝えたりします。また、学校等で、子どもたちにも苗木を配ります。



植栽によってこんなにも木が育ったトゥルバ市場

植生保護区の設置と補植

植林活動だけでなく、村や農民組合を単位としたコミュニティで、家畜の放牧やたきぎの伐採の自粛などを進め、自然植生の復活を図ります。



植生保護区の設置

粘土製・金属製改良カマド普及

電気やガスのないアフリカの多くの地域では、「三石カマド」(P.12) と呼ばれるカマドを使っています。3つの石を並べて、その上に釜を乗せるだけという簡単なものですが、たきぎを大量に消費してしまいます。少しでもタキギの使用量を減らすため、熱効率のいい廃材のドラム缶を利用した「改良カマド」の普及を行っています。タキギの使用量が減るだけでなく、調理時間の大幅な短縮にもつながり、女性に好評です。



金属製改良カマド

野菜栽培支援、穀物備蓄支援

地域における食糧・栄養状況の改善を目指し、様々な作物や穀物の導入を試みています。また、食糧不足から翌年植えるはずの種子を食べてしまったり、売ってしまったりする農民が多いため、穀物の種子の貸し出しを行っています。

井戸掘削

乾燥化による水不足で、衛生面でもよくないことから、井戸の建設も行っています。

講習会・環境教育の実施・現地団体支援

地域住民自らによる継続的な環境保全を実現するためには、住民組織の整備と強化が不可欠です。そのための支援や研修などを行います。

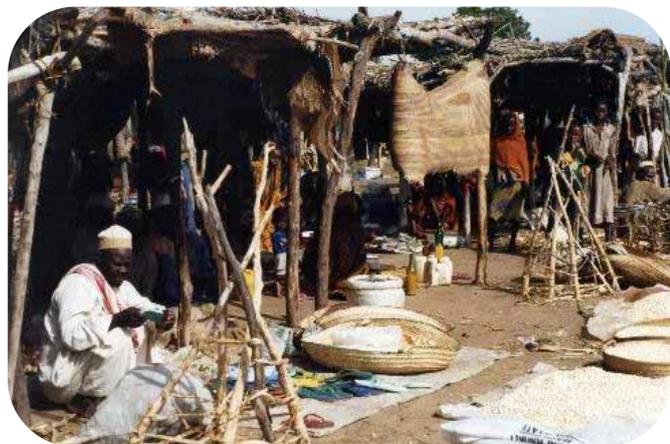


講習会





フォトギャラリー



苗木には担当者！

家畜に食べられないように責任をもって管理します。



ドラム缶を利用してカマドづくり



アグロフォレストリー(農林複合経営)

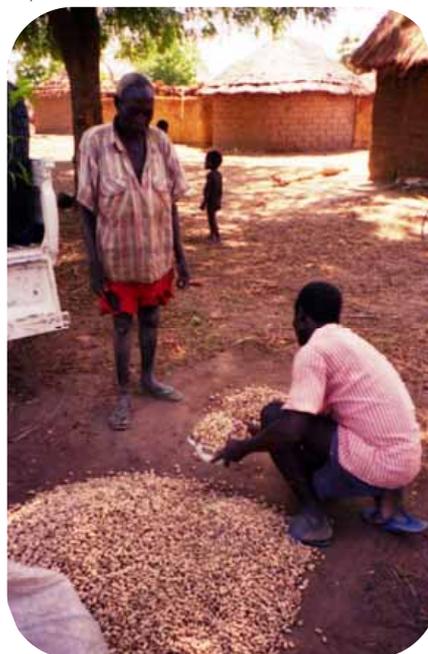
耕地内にアカシア・アルビダを植栽することにより地表温度を上昇させて土壌の乾燥化を緩和するとともに落ち葉が肥料となります。



学校でも植林



穀物備蓄



落花生の種子貸し出し

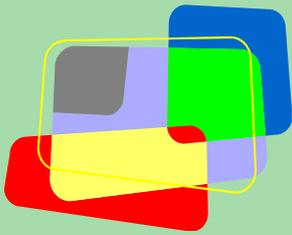


緑のサヘル(写真すべて)



第3章

一緒に考えよう！こんな課題



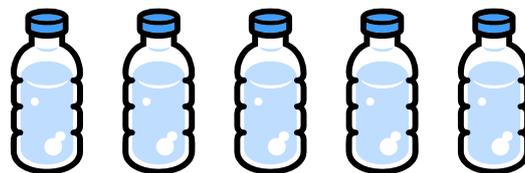
1日にどれだけ水を使っていますか？

① 毎日あたりまえに使っている水。でも、それって本当にあたりまえ？

1 毎日の生活のことを思い浮かべてみてください。みなさんはどんな時に水を使いますか？
思いつくものをグループで出し合い、A4の紙に書き出してみましよう。

トイレ
歯磨き
顔をあらう
お茶を飲む
...

2 ここにペットボトルが5本あります。
1本に2 の水が入っていますので、5本で10 です。
さて、もしも1日に10 の水しか使えなかったとしたら
どうしますか？



先ほどまとめたA4の紙に書き出した水の量は、10 で足りるでしょうか？

3 日本人が1日に使う水の量はどのくらいだと思いますか？
チャドの人々が1日に使う水の量はどのくらいだと思いますか？

4 水に関する資料を読んでみましょう。(→P.22)

5 今までの作業を通してどんなことを感じましたか？
感想を自由に話し合ってみましよう。



水危機にある地球

国連開発計画 (UNDP) が発行している『人間開発報告書2006』によると世界で約11億人が水を十分に利用することができず、26億人が基本的な衛生設備を欠いた中で暮らしています。人が最低必要とする水の基準量は1日約20 ですが、11億人のほとんどの人々の水使用量は1日約5 です。これは、富裕国でトイレの水を流すために消費される1日の平均量の10分の1です。ちなみに、1回のトイレで流す水の量は約10～13 。シャワー1分間で使う水の量は約10 、4人家族の食器を洗うのに使う水の量は約60 だそうです。

水不足は、さらに次の問題を引き起こします。例えば、180万人のこどもが毎年下痢のために死亡する、水関連の病気によって毎年のべ4億4300万日の授業が受けられない、何百万もの女性が、水汲みに毎日数時間費やされ、教育の時間を奪われるなど。そうした問題は、さらにさらに「貧困の悪循環」を生み出します。事実、安全な水を充分に利用できない人のうち、3人に2人は1日2ドル未満で生活し、残る1人は1日1ドル未満で暮らしているのです。

チャドの水事情

チャドでは、水不足が大きな課題になっています。日常、井戸から水をくみ上げますが、乾季になると井戸が干上がってしまい、暑いチャドに住む人にとってはとても大変です。また水があっても、黒く汚れていたりして、衛生面でも問題があります。また、チャドに住む難民も水不足に苦しんでいます。国連では1日15 を目標に水を配りますが、どんどん増える難民に追いつきません。難民の連れてきた家畜が水不足、食糧不足で死んでしまうこともよくあります。

だから、食事よりもまずは水! と水をととても大切に使います。手を洗った水で、食器を洗い、さらにその水を植物にやるなど。少しの水をいろいろな用途に使うのです。



ロバで水を運ぶ女性



 緑のサヘル(写真すべて)



井戸の周りにはいつも人が集まる

砂漠化に苦しむチャド

① 地球の環境問題の一つ「砂漠化」。いったい何が起きているのでしょうか？

1 次の写真は何を表した写真でしょう？

A



B



C



2 実は、これらは「砂漠化」の原因となっていることです。(→P.24「砂漠化」の説明)

下の写真は砂漠化の様子を写したものです。

では、砂漠化が進むとどんな問題が起こると思いますか？

グループで話し合ってみましょう。



3 砂漠化を止めるために、どんなことができるでしょう？

みんなで考えてみましょう。





P.23のこたえと解説です。



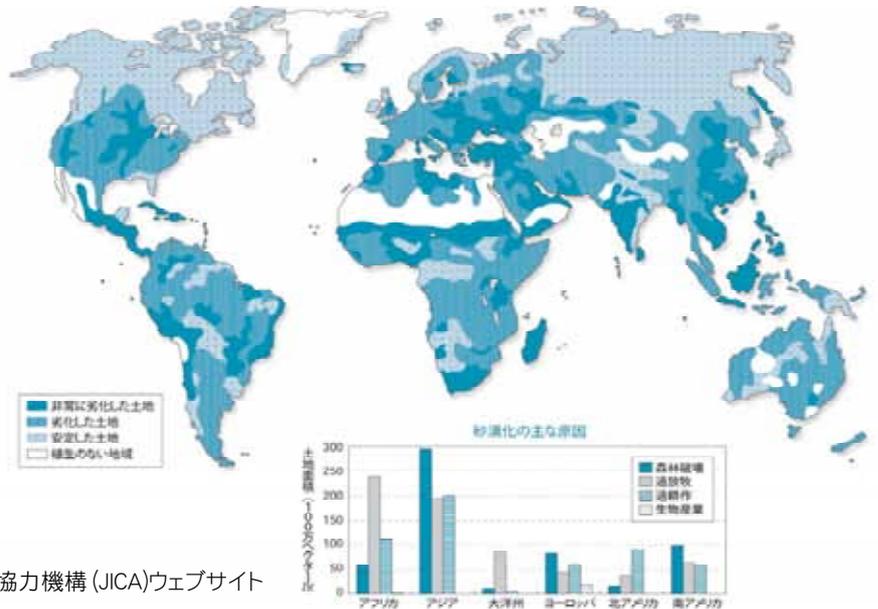
地球的に起こっている課題と現状を知り、自分たちもその解決に取り組んでいかなければいけないことに気づく。

- A** 道で売られているたきぎです。電気やガスがない村では、たきぎを使います。チャドの平均的家庭は7人家族ですが、1ヶ月に使うたきぎは、500kg～1tなのです。そのため、どんどん森林を伐採してしまい、それが砂漠化の一因ともなっているのです。さらに、難民が大勢来たことによって、人口が急増し、たきぎの消費量も増えていきます。そうしたことから、特に難民キャンプの周りが砂漠化し、周辺住民との摩擦も生み出しています。
- B** チャドではたくさんの家畜が飼育されていますが(→P.11)、放牧により家畜が葉などを食べてしまうのです。せっかく苗木を植えても食べられてしまうことが少なくありません。
- C** チャドの人々の多くは、農業で生計を立てています。ただでさえ、やせた土地で過剰な焼き畑や耕作をすることにより、さらに土地はやせ、最後には砂漠化してしまうのです。

これらの要因はお互いに関連し、一つの要因がまた別の要因を生み出すという悪循環が起こっています。

砂漠化とは...

砂漠化対処条約は、砂漠化を「乾燥、半乾燥および乾燥半湿潤地域において、気候変動(干ばつなど)や人間活動を含むさまざまな要因によって起こる土地の劣化である」と定義しています。砂漠化は世界中で起こっています。乾燥地は陸地の約41%を占めますが、そのうち10～20%がすでに劣化し、生産性を失ってしまったと言われています。砂漠化対処条約事務局によると、砂漠化は2億5,000万人の暮らしと健康に直接影響を与え、100カ国以上の10億人を超える人々を脅かしています。



独立行政法人国際協力機構 (JICA) ウェブサイト

砂漠化による影響



水不足



食糧不足



土地の荒廃



燃料不足



熱風・砂塵

➡ 砂漠化防止の取り組みについてはP.18

緑のサヘル(写真すべて)



フォトギャラリー ~ 難民キャンプ ~

📷 緑のサヘル(写真すべて)

2003年に新たに始まったスーダン西部ダルフール地方での政府軍と反政府軍の戦闘によって、100万人以上の被災民が家を失い、その一部がチャドに流入しています。現在、約20万人の難民がチャドの難民キャンプで生活しているのです。



難民キャンプ



フォトコミュニケーション

きょうもまた難民がやってくる



ひたすら順番待ちが繰り返される日々



食糧の配給



水が配られる



キャンプ内の学校

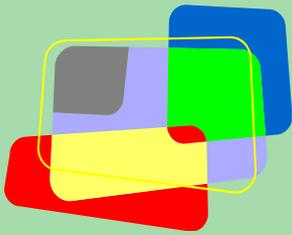


遠くで戦火が...



第4章

そして未来へ



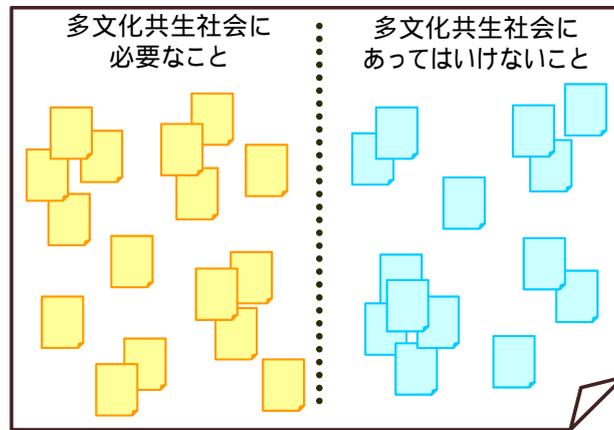
『多文化共生社会』ってどんな社会？

① 地球のみんなが一緒に生きていくということは
どうのことなのでしょう？



- 1 みなさんは、『多文化共生社会』ということばを聞いたことがありますか？
「多くの文化が共に生きる社会」というのは、いったいどんな社会でしょう？
「多文化共生社会に必要なこと」を黄色い付箋紙に、「多文化共生社会にあってはいけないこと」を青い付箋紙に書き出してみましょう。付箋1枚に1項目ずつ、できるだけたくさん書いてみてください。

- 2 4～6人のグループに分かれましょう。
各グループで模造紙を用意し、半分に区切ります。左側には「必要なこと」、右側には「あってはいけないこと」を貼っていきます。みんなの意見を共有するために、1人ずつ読み上げながら貼ってください。また、他のメンバーが似たようなものを貼った時はその近くに貼ってください。



- 3 模造紙にまとめたことをもとにグループで「多文化共生社会とは……な社会」という文章をつくってみましょう。

- 4 では、そんな社会を実現するために、私たちにできることは何でしょう？
一人ひとり、A4の紙に「私たちにできること7か条」を書いてみましょう。

- 5 一人ひとりがつくった7か条をもとに、グループで「多文化共生社会を実現するための7か条」にまとめ、右のように模造紙に書いてみましょう。

- 6 全員で発表し、感想を話し合しましょう。

多文化共生社会とは	
な社会	
そんな社会を実現するための7か条	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	

号外！号外！20年後の新聞です



20年後の地域と地球はどうなっているでしょう？
どうなっているといいでしょう？

みなさんは新聞記者です。20年後の明日発行する新聞記事を書いているところです。
20年後はどんなニュースが新聞に載っているでしょうか？だれにでもわかりやすいことばでまとめてみましょう。

- 1 まずは、グループで新聞名を決めましょう。
模造紙を横にして半分に区切り、
新聞名と日付を書き込みましょう。

20xx年 月 日	20xx年 月 日

新聞

- 2 20年後地域と地球がこんな風になっている
といいなと思うことを想像し、ニュース記事に
まとめてみましょう。模造紙の右半分に地域のニュースを、左半分に地球のニュース(あるいは、チャドのニュー
ス)を書きます。

- 3 全員で発表し、感想を話し合ってみましょう。

- 4 さて、今の生活を続けていったとき、ニュースにまとめたような地域や地球が実現できると思いますか？
実現するために、自分がやろうと思うことを1つ決めて、グループで共有しましょう。

多文化共生社会

1990年の入管法改正により、主に南米からの日系人が多く日本に住むようになりました。近所や学校、職場に外国籍の方がいるのがあたりまえの状況の中でことばの問題、文化・生活習慣の違いからくるトラブル、子どもたちの教育問題、近年の経済悪化による雇用の問題などさまざまな課題が生じています。そうした課題に取り組む中で目指しているのが、「多文化共生社会」の実現です。この「多文化共生社会」とは、「国籍にも、性別にも、年齢にも、障害の有無にも関わらず、すべての人が暮らしやすい社会」と位置づけられています。愛知県が2008年にまとめた「多文化共生推進プラン」では、愛知がめざす多文化共生社会を「国籍や民族などのちがいにいかかわらず、すべての県民が互いの文化的背景や考え方などを理解し、ともに安心して暮らせ活躍できる地域社会」としています。そうした社会を実現するために、2006年には、総務省から各自治体に向けて「地域における多文化共生推進プラン」が出されました。その中では、特に外国籍住民も暮らしやすい社会を創るために、次のようなことに取り組んでいくと書かれています。

コミュニケーション支援

多言語による情報提供、相談窓口の設置、日本語学習の支援など

生活支援

入居差別の解消、教育にかかる情報提供、進路指導、就業支援、就業環境の改善、外国語対応可能な病院・薬局等の情報提供、医療通訳者の派遣、健康診断・健康相談の実施、高齢者や障害者への対応、災害時の通訳ボランティアの育成、災害時の情報の多言語化など

多文化共生の地域づくり

地域住民への啓発、多文化共生の拠点づくり、外国籍住民の地域社会への参画推進など

地球的課題(グローバルイシュー)

一国では解決することが難しい、人類共通の課題を「地球的課題」「地球規模の課題」「グローバルイシュー」といいます。大きく分けると4つ。これらの課題は、包括的かつ相互的に関連しています。

地球環境

先進国の経済成長などに伴うオゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨、砂漠化、海洋汚染、ごみ問題、野生生物の絶滅など地球規模で発生している課題です。

貧困と開発

南北問題に伴う貧困、それによる食糧不足、飢餓、衛生面での問題、教育の問題、児童労働など子どもや女性など弱者にかかる問題、持続可能でない開発による環境破壊など。地球規模の構造的な課題なので、途上国だけでは解決できません。

平和と安全

核兵器や生物化学兵器など、国境に関係なく被害を及ぼす兵器の根絶、テロの問題、地域紛争の解決と平和維持、児童兵士の問題などです。

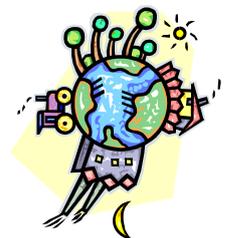
人権

民族差別や紛争などにおける難民の問題、貧困と開発のために過剰な労働を強いられる女性や子どもの問題、人間として最低限必要なものさえ保障されない極度の貧困の問題などです。

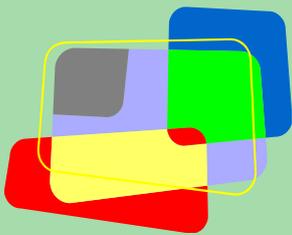
地域の課題と地球の課題はつながっている ~「持続可能な」社会を創るため~

地域の課題と地球の課題は別のもと考えてしまいがちですが、だれもが暮らしやすい「持続可能」な社会を創るという意味では共通しています。また、地域の課題を解決していけば地球の課題の解決にもつながりますし、地球の課題を解決しなければ、地域の未来もないのです。

地域の課題も地球の課題も「だれかが解決してくれる」ものではありません。途上国の多くの課題も原因を突き詰めていけば、わたしたちの日常生活につながってきます。わたしたち一人ひとりが地球の一員として、地域の一員として、自分の問題として、解決に向けて取り組んでいかなければ、次世代に課題を持ち越してしまうことになるのです。



参 考 资 料



目で見るチャド



旧宗主国フランスとの結びつきを強調し、フランス三色旗の中央を黄色にした国旗が1959年に制定されました。同じくフランスからの影響でできたルーマニアの国旗とまったく同じ図柄です。青は空と、未来に託した希望と願望を表し、黄は太陽と砂漠と地下資源を、赤は勤労精神と発展を象徴しています。

●人口●

 1,050万人(2008年国連人口基金)



 128百万人



●面積●

 1,284,000km²
(日本の約3.4倍)

 377,887km²



●言語●

フランス語
アラビア語(公用語)



●宗教●



●気候帯●

中央アフリカ国境付近
: 熱帯サバナ気候
中央部: ステップ気候
北部: 砂漠気候



●民族●

サラ族、チャド・アラブ族・
マヨ・ケビ族・カネム・
ボルヌ族、その他

●通貨●

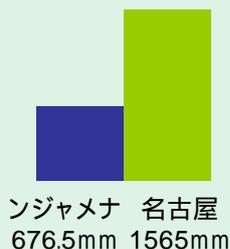
CFAフラン



●平均気温●

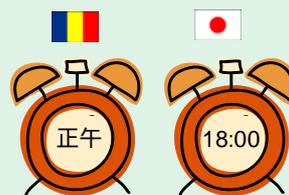


●年間降水量●



●日本との時差●

- 6時間



国旗: 『世界の国旗』吹浦忠正監修(Gakken) 人口・面積・首都・民族・通貨: 外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」 日本の人口: 世界子供白書2008(ユニセフ) 日本の面積: 総務省統計局「日本の統計」 気候帯・平均気温・年間降水量: 外務省ウェブサイト「探検しようみんなの地球」 名古屋の平均気温・年間降水量: 気象庁観測部観測課観測統計室「日本気候表」(S46~H12年の平均) 言語・日本との時差: 世界の国一覧表(財団法人世界の動き社)

●主要産業●

農業(綿花)、牧畜業、原油



●日本との貿易主要品目●



●一人あたりのGNI●

480米ドル(2006年世銀)



38,410米ドル(2006年世銀)



●在留邦人数●

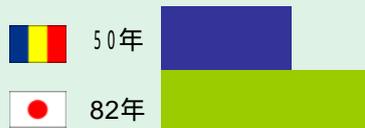
7人(2006年10月現在)



●在日当該国人数●

5人(2006年12月現在)

●出生時の平均余命●



●都市人口の比率●

26%(2006年)

66%(2006年)



●5歳未満児の死亡者数●
(出生1000人あたり)

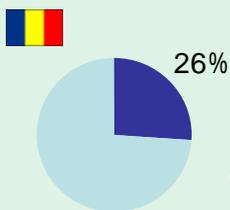
101人(2006年)



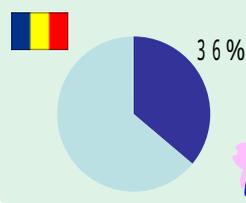
4人(2006年)



●成人の総識字率●
(2000~2005年)



●初等教育
純就学/出席率●
(2000~2006年)



●人口増加率●
(1990~2006年)

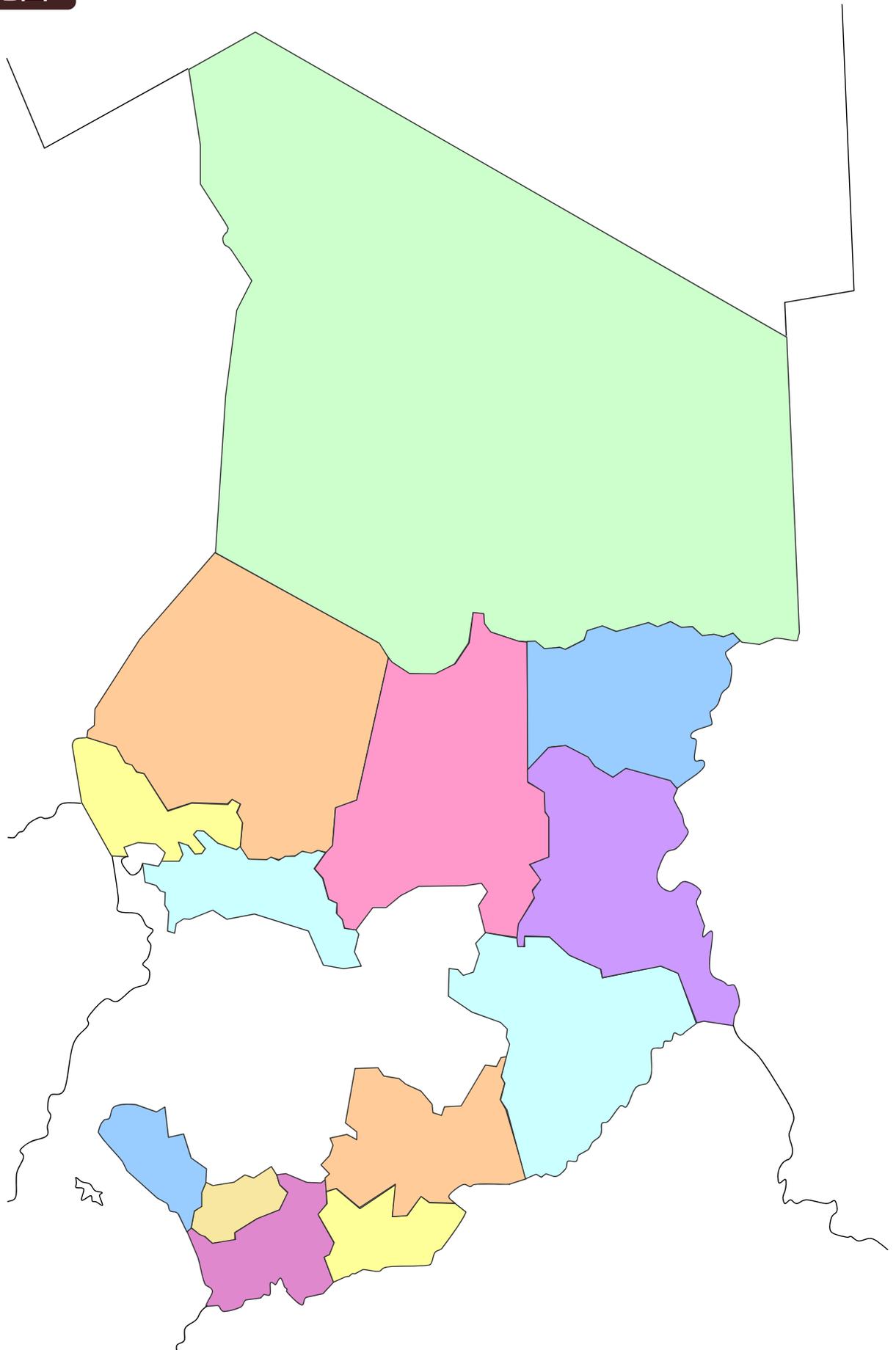
3.4%

0.2%



主要産業・日本との貿易主要品目・在留邦人数・在日当該国人数・外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」 一人あたりのGNI・出生時の平均余命・都市人口の比率・5歳未満児の死亡者数・成人の総識字率・初等教育純就学/出席率・人口増加率:世界子供白書2008(ユニセフ)

チャド地図







参考文献・データ等の出典

外務省「各国地域情勢」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/>

外務省「探検しよう! みんなの地球」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sanka/kyouiku/kaihatsu/chikyu/index.html>

総務省統計局「日本の統計」

<http://www.stat.go.jp/data/nihon/index.htm>

財団法人日本ユニセフ協会「世界子供白書2009」

<http://www.unicef.or.jp/library/index.html>

独立行政法人国際協力機構JICA

ご協力いただいた方たち【敬称略】

菅川拓也(緑のサヘル事務局長)

大阪信愛女学園小学校

ショファイユの幼きイエズス修道会



2008年度教材作成チーム

一宮市

田原市

長久手町

幸田町

扶桑町

特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター

財団法人 愛知県国際交流協会



世界の国を知る  世界の国から学ぶ

わたしたちの地球と未来

 チャド共和国 

2009年3月

発行 愛知県

**企画
編集** 財団法人 愛知県国際交流協会
〒460-0001

名古屋市中区三の丸二丁目6番1号
あいち国際プラザ

TEL: 052-961-8746 FAX: 052-961-8045

E-mail: koryu@aia.pref.aichi.jp

URL: <http://www2.aia.pref.aichi.jp>

印刷 サンメッセ株式会社



